

自然農園だより



宮下 洋子
Hiroko Miyashita

種の乾燥風景

畑じまいは順調

毎年、不意の根雪で、畑の下に多くの作物を残してしまい、残念な報告ばかりでしたが、今年には不思議なほど順調に進んでくれました。平年より初雪も根雪も遅かったのにも助けられたようです。

マスコミでは「やっと初雪」という表現でしたが、農園では「すべり込みセーフ」といった感じです。

干し柿や干し芋や焼き芋屋さん等、寒さを待っている人たちも多いので、手放しでは喜べない感じですが、とにかく少しホッとしています。

残された仕事

あと、欲を言えば、前任者が残していった、サクランボの木と栗の木の剪定です。池田さんは、もと『きこり』なので、12月にお店（今年は西野本店です）の方に派遣になる前までに剪定してもらえれば完璧です。サクラン



3年目にして初めて剪定した栗の大樹。毎年収穫量や大きが様々に異なる。

ボも栗の実も年々実が小さくなる
ようで、近所の方の話だと、思い
切って剪定すると、また、大きい
実をつけるようになるそうです。

どちらも肥料は上げたことがな
いのですが、必要がないからでは
なく、春は忙しくて、サクランボ
や栗にまで手が回らないというの
が実情です。そのせいか、サクラ
ンボは今一つ味が薄いので、来年
の雪解け後に0-1テストしてみ
ようと思っています。

今年一年を振り返って

振り返れば、天候不順はあった
ものの、前年より出荷量は多かつ
たし（まだ最終的な数字は出せていないのです
が）、品質も作物によって違いはありますが、
全般的に、年々良くなっているように思います。
少しずつ土づくりが出来てきているのだと思
います。



ジャガイモの種いもを選別中

すが、能率が悪く壊れてしまい、
高額な修理代をかけて直しても
らったのですが、使いづらく悩
みの種でした。

パワーショベルで運んで、ス
コップで撒いた方が早いという
事になり、今年は人力が主にな
りました。そういうこともあっ
て、必要最低限の散布しか出来
ていないので、土壌改良がなか
なか進みません。4町5反の畑
に人力で堆肥撒きするのは、ど
う考えても無理があります。仕
事が遅れ遅れになる原因になっ
ていました。

そこで、思い切って、来年は
同じトラクター装着型ですが、
本格的な堆肥散布機（マニアスプレッダー）を
買う事にしました。せっかく自家製の堆肥も
作っているのですから、もっと、早く広範囲に
撒きたいものです。今になって思うに、最初か
らしっかりした散布機を買っておけばよかつた
のです。

母がよく「安物買いの銭失い」
と言っていたのを思い出します。大変
な無駄遣いをしてしまいました。

堆肥散布機 （マニアスプレッ ダー）の購入

引っ越し初年度に、ト
ラクター装着型の簡易型
堆肥散布機を買ったので



トラクターの後部に付ける小型マニア
スプレッダー（堆肥散布機）

農業の機械化について

農業の機械化によって借金がかさ
み、借金の為に働いたり、離農したり
するのを「機械貧乏」と言うのだそう
です。札幌の小別沢農園の場合は、機
械化があまり出来なくて、「機械貧乏」
ではなくて「人件費貧乏」でした。何
しろ、売上金と人件費が毎年同じくら
いだったので、経費を差し引くと、毎
年何百万円も赤字でした。私はお給料
を一回ももらっていないし、多くのボ



粃殻堆肥の山。左は、ブレンド散布機（肥料撒き機）



小別沢から持ってきた45馬力トラクターで堆肥の切り返し

ランティアさんに助けられているのにです。しかも、まほろばへの卸売価格が9掛け（これではまほろばも赤字になります）にしてもらっているのに・・・でした。

もと農家の大橋店長のルートで、中古のトラクターを始めとする機械類を格安で都合してもらい、機械の扱い方やメンテナンスのやり方など店長が指導してくれたので、最低価格で、最低限の機械化は出来たのですが・・・

小別沢は行き詰っていたのです

また、傾斜地なので、これ以上の機械化は無理がありましたし、累積赤字が溜まっていたので、新しい機械を買うお金もありませんでした。さらに、新しい機械を買えば、機械を格納する倉庫も必要になるし、いつまで居られるか分からない借りた土地で、倉庫を建てるのも難しいものがありました。また、倉庫を建てたいと思ったところに面している道路幅が狭くて建築確認が下りませんでした。農地を買うにも札幌市内なので、手が届くような金額ではありませんでした。小別沢は行き詰っていたのです。



有機、自然農法の壁

有機や、自然農法で農業をしている人たちは様々で、大型機械で大農場を経営している人たちもいれば、手作業の多い人たちもいます。一般的には小規模で手作業の多い農業というイメージがあります。また、大規模農家でも、全部の圃場を有機、自然農法でやるのではなく、一部だけやっている人たちも多いように思います。

それと言うのも、有機や自然農法は、反収（一反当たりの収量）が低いことや、病気や害虫に対して農薬が使えないので、全滅の危機もあります。除草剤が使えないことで、大変な労力がかかります。また、自家採種の種は、均一に成長してくれないので、収穫に大変な手間がかかります。にもかかわらず、それに見合った値段ではなかなか売れないこと、自分で販路を切り開かなければいけないことなど、多くのリスクや壁があるからです。

さらに、まほろば農園の場合は、店頭で販売する多種類（100種類以上）の野菜を、季節に合わせて少量ずつ作らなければいけないので、最も効率の悪い農業になっています。

先祖代々の土地や倉庫、ハウス、機械類、販売ルートなどがあっても、なかなか難しい農業です。農家に生まれ育った大橋店長が、本気で

心配してくれ、今でも辞めた方がいいと言ってくれるのも、無理もないのです。

心機一転、仁木へ

仁木の土地は小別沢よりはるかに安いので、ここで、私の退職金（70才でまほろばの専務を辞めて顧問になりました）で、土地と、新しい機械類を買い入れて再スタートしたのです。土地や機械類を買う為に、どこにも借金はしていないので、失敗しても、私が一文無しになるだけで、リスクはありません。

ここで私がやりたかったことは、まほろばに野菜を供給するために必要な農場規模の確保と、それに見合った機械化、0-1テストによって、野菜の質や安全性を向上させながら、どれだけ労働力の省力化と、労働の軽減化、経営の安定化が図れるかという事でした。

出来ることは、機械化と、肥料の自給

手間のかかる自家採種や無農薬、無化学肥料は、絶対譲ることは出来ませんから、あと、出来ることは、機械化による人件費の削減と、肥料の自給しかなかったのです。

機械化も、大きな機械は、農場に堅い耕盤層を作って水はけを悪くしてしまいます。



足寄の会社が開発した自走式カルチ（中耕除草機）

4、5ヘクタール（町）の農地では、大規模農業ではないので、機械類も馬力が低く、その心配はありません。こちらに来て購入したトラクターは25馬力ですが、小別沢から持って来たトラクターは45馬力なので少し大きいかなとは思いますが、じゃが芋掘り機は、それでないと引っ張れないのです。トラクター装着型のフレールモアー（除草機）や、真空播種機、マルチャー（マルチ貼り機）、ブレード散布機（肥料播き機）、自走式カルチ（除草機）や苗植機などを買いました。

使いこなすには時間が・・・

それでとても便利になるはずでしたが、使いこなすには時間がかかっています。なれるまでは、脱着や設定にも時間がかかってしまいます



し、便利な機械ほどややこしいのです。

カルチも慣れないと、雑草ばかりではなく、野菜まで抜いてしまったり、土に埋もれさせてしまったり、用心しすぎると、雑草がいっぱい残って、効果がなかったり・・・そういう事を繰り返しながら、徐々に徐々に機械化の効果が出始めているところです。



仁木に来てから購入した 25 馬力のトラクターで耕耘している所。

肥料噴霧器

トマトの追肥が間に合わなくて、タイミングを逸してしまったので、こういう時は、即効性の液肥の葉面散布だという事になり（有機質肥料はす



水はけを良くするためのサブソイラー（溝切り機）ぐには効かないので）、小別沢で買っていた手動式の噴霧器を使いました。小さいのですぐになくなるし、きれいに噴霧してくれないし、壊れたので、今度は電動式で、背負い式の少し大きいものをまた買いました。

今度は液肥がいっぱい入るようになり、きれいに長時間噴霧できるようになりましたが、重すぎて背負えなくなってしまいました。誰かに手伝ってもらおうか、背丈と同じくらいの台の上に置いて背負うのですが、背負って噴霧するのも結構体力が要ることが分かりました。どんなものも経験してみなければわかりません。

農薬散布？

これは、主として、ハウスなどの農薬散布に使われる噴霧器なので、見学の人やボランティアの人が来られた時には、私は一生懸命農薬ではないことを説明しなければいけなくなってしまいました。何しろ、細かい白い霧状になって、

かなり派手に拡散する様は、誰がみても農薬としか見えません。

慣行農法のご近所の方から見ても、農薬散布にしかみえないだろうなあ・・・

千万人といえども我行かん

「天知る、地知る、我が知る」で、我が心にやましがなければ、「千万人といえども我行かん」の志で今まで生きて来たつもりですが、何か少し気にしている自分がいます。

どんなに自分が清廉潔白と思っても、誤解されやすいようなことは、あえてしない方が良い



25L も入る背負い式エンジン噴霧器。ミネラルや有機液肥を散布する。

という年相応の処世術もあります。だから、別のより良い方法を見つけた方がいいのです。でも、どんなに考えても、より良い方法が見つからない時、自分の考えを貫くかどうかは、どれだけ重要かの一点にかかっています。

でも、今回の場合は、そんな大げさなことではなく、肥培管理をしっかりやって、手遅れにならないように追肥を早めに行うことが先決ですね！



白菜を積み上げた山から出荷する

いつまで経っても芽が出てこない

秋白菜が、毎年、結球が遅れ気味で結球できないうちに雪の下になってしまうので、今年は、種苗メーカーさんのカタログよりも、大分早くに種まきしました。

トラクターに装着型の真空播種機で種まきしたのですが、いつまで待っても発芽してくれません。大分遅れてまばらに発芽してきました。機械の設定が少し深播きになり過ぎたようです。これでは量的に足りないように思いますが、今から播いても、とても間に合いそうにありません。それでも、来年の菜花用になればと思っ、今度は設定を浅くして、練習の為に播いてもらいました。

今度は上手に発芽して、しかも、かなり巻いてくれました。ことしの秋が長かったのと、朝から晩まで日当たりのいいことが幸いしたようです。結球の緩い物も食べてみると、トロリとしてとても美味しかったので、貯蔵しています。品種は、『松島2号』と言う在来固定種で今年初めて作ってみました。これまで、自家採種してきた『晩秋』という白菜よりも美味しいので、自家採種してみようと思います。

苗植機『ナウエルナナ』

苗作りして定植する野菜は、中腰で植えていくと、腰が痛くなるので、苗植機「菜植える菜々」ちゃんを買ってみました。植える深さが深すぎると土の中に埋もれてしまい、機械の後からついて行って、土をよけてあげなければいけません。浅過ぎると、根が出てしまったり、倒れてしまうので、これも土をかけて行ったり、起こして植えなおさなければいけません。畝の土の高さは水平ではないので、一定の高さに設定してあげても、深植えの所も、浅植えの所も出来てしまうのです。従って、レタスやキャベツ、ブロッコリーやカリフラワーのような小さい苗は、手で植えても労力は変わらないという事になり、多少の高低には影響のない、ジャガイモや、枝豆の定植にだけ使うようになりました。



自走式苗植機〈ナウエル〉本店パートさんの安田さんが大豆の苗を入れ、池田さんが手直している。

便利なように見えても、何でも、やってみなければわかりません。それでも助かっています。まほろば本店から研修の名目で、機械で出来ないところの定植や除草をお手伝いに来てくれたりしたのも大助かりでした。

マルチャー（マルチ貼り機）

これがある為にどんなに助かっているか測り知れません。高畝にしたり、平畝にしたり、1条植えにしたり、2条植えにしたり、5条植えにしたり、灌水チューブを入れたり、機械の設定が上手に出来るようになるまでは、なかなか大変で、美しく機能的なビニールマルチを作るには、技術もいるようです。

でも、どうにかこうにか使いこなして、労働力の省力と軽減化ははかられていると思います。

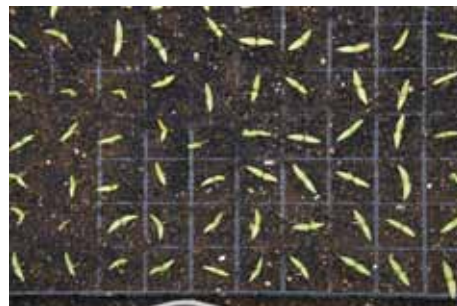
苗作り用真空播種機

全自動ではありませんが、プラグトレーに一粒一粒ピンセットで種を播く手間は省いてくれます。特に、キャベツやカリフラワー・ブロッコリー・レタスなど、小さい種をたくさん播かなければいけない時は、とても助かっています。

ただし、プラグトレーに植えた苗は、ポットよりも小さいうちに早く植えなければいけないのですが、場所づくりが遅れて、定植適期を逃してしまふ事が多く、作った苗の数ほど出荷出来ないうちでいます。定植するまでには、前作の残渣を整



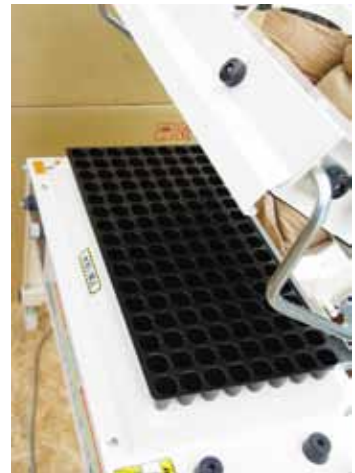
マルチャー（マルチ張り機）とビニールマルチされた畑



理し、フレールモアで粉碎し、堆肥やヌカ、肥料を播いて耕起し、マルチ張りをしなければいけないので、それが大変だったのです。でも、来年は堆肥散布機（マニアスプレッダー）を購入したので、かなり効率よく作業できる予定です。

機械化は地球温暖化に加担？

これらの機械は、燃料にガソリンや軽油、混合油（ガソリン+オイル）を使っているため、排気ガスも出しています。自然食品店としては、そんな事はしたくないのです。



真空播種機でプラグトレーに播種
左は発芽した所



トマトは適期に、ポットに移植して苗の成長を待つ。

が、家庭菜園ならいざ知らず、お客様も必要とする量の野菜を作ろうと思えば、最低限の機械化は避けられないものがあります。どんなに努力しても、人力では無理があるからです。

苗作りのハウスでは、今年から薪ストーブを導入してみましたが、エネルギーの自給にはなっても、CO₂を出すという事では変わりません。

排出より、吸収の方がはるかに多いのでは？

それに、農業、とりわけ、自然栽培においては、野菜、果樹、雑草などに囲まれて、CO₂の排出より、吸収の方がはるかに多いと思います。一時期、5人の従業員を雇ったことがあるのですが、一年で600万円も赤字を出してしまいました。売上より人件費の方が多かったからです。

皆、さぼっているわけではありません。無休で無給の私（今は主人も）も含めて、みんな朝から晩まで身を粉にして働いてくれたのです。

理想的な農業の追求と、自然との調和、経営の安定

小別沢23年間の営農経験は大変貴重なものでした。まほろばの役員会議では、効率的な農業をする為に、もっと作る野菜の品目を減らした方が良いのでは・・・と何度もアドバイスをもらっていますが、それではお店の品揃えが出来ません。

季節季節に北海道で出来る日常的な野菜はぜひお店に並べたいと思うのです。本当言うと、もっと多種類、大量に、途切れることなく作りたいのです。

その為には、小別沢より、もう少しの機械化と、家族労働の比率を高める事でした。

決して妥協しない理想的な農業の追求と、自然との調和、経営の安定・・・三位一体の生き方を主人と共に、これからも追及していきたいと思えます。

そして、それをさせてくれている、支えてくれているまほろばの店長や、島田編集長を始めとするまほろばの従業員の皆さま、お客様、改めて感謝申し上げたいと思えます。今後ともよろしくお願い致します。



まほろば自然農園の野菜、それぞれ、さまざま。